

保守政治の変質と「価値観外交」の罫

日本国際交流センターシニアフェロー

わか
みや
よし
ぶみ
若宮啓文

*戦後70年 安倍談話をどう見るか

*ほかされた二つのキーワード＝侵略と植民地支配

*日露戦争は本当にアジアの人々を勇気づけたのか？

*安倍談話の評価できるところは

*和解とナショナリズム―「翌年の法則」

*安倍首相の価値観外交とは

*自由と民主主義を共有する国はどこなのか？

*恐るべきはナショナリズムの対立＝湛山の予測に学ぶ

*保守の三つの源流



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は石橋湛山賞の受賞記念講演ということで、例会を兼ねてやらせていただきます。

今年の石橋湛山賞は、若宮啓文さんに決定をいたし、午前中にここで授賞式を行いました。

若宮さんはご存じの方も多いかもかもしれませんが、朝日新聞で政治部、それから論説主幹、主筆を務めてから、2003年から日本国際交流センターのシニアフェローをされておられます。ご著書は先ほども授賞式等で伺いましたけれども、1995年に出された本を2回、ブラッシュアップをされ、再構成されたものでございます。日本の保守の流れの中に、石橋湛山と岸信介の二つの流れがあるというお話を、保守の

アジア観ということで研究されたわけでございます

ですが、まさしく現在、安倍政権の下で岸の流れのほうが前面に出る日本の外交の展開になっております。もう一度、保守の本流というものが何なのか、本当に今安倍さんがやっておられることが日本の将来のために適切なのであるかどうか、この機会にきちんと見直す必要があると思います。そういう意味で、今日の記念講演ではそこら辺を若宮さんからじっくりお話しただけだと思います。

若宮 ご紹介いただいた若宮と申します。

今日はいたいへん名誉ある賞を午前中にいただきました。その後、石橋湛山さんゆかりの経済倶楽部で講演の機会を得られたことに、厚く御礼申し上げます。

本のタイトルにもなったように今年には戦後70